

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 1 年度目 (令和 6 年度) の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		2,037	t-CO ₂
① 温室効果ガス 換算 排出量	②非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	③メタン		t-CO ₂
	④一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑤ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑥パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑧三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑨エネルギー起源二酸化炭素 (発電所等配分前)		t-CO ₂
温室効果ガス総排出量 (①~⑨合計)		2,037	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

(1) 温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 5 年度	t-CO ₂	令和 8 年度	t-CO ₂	令和 6 年度	t-CO ₂	令和 7 年度	t-CO ₂	令和 8 年度	t-CO ₂
温室効果ガス総排出量	1,961	t-CO ₂	1,902	t-CO ₂	2,037	t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率 (対 基準年度)			3.0	%	▲ 3.9	%		%		%
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率 (対 基準年度)						%		%		%

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 5 年度		令和 8 年度		令和 6 年度		令和 7 年度		令和 8 年度	
原単位当たりの排出量										
削減率 (対 基準年度)				%		%		%		%
原単位当たりのみなし排出量										
削減率 (対 基準年度)						%		%		%

(2) 進捗状況に対する自己評価 (目標の達成/非達成の理由)

令和6年度は、夏が例年以上に暑かっただけでなく、冬もしっかり寒かったため、電気使用量が4%以上増加せざるを得ず、目標は達成できなかった。しかしながら、社有車の電動車への移行は順調に進んでおり、ガソリン使用量は減少している。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
 備考3 原単位当たりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量当たりの温室効果ガス排出量をいいます。
 備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び非化石エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制等に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
一般管理	毎月の電気使用料を詳細に把握し、前年対比で異常値がないかを確認するとともに、増減の要因把握に努める。	エネルギー消費量の抑制	毎月の電気使用量を詳細に把握しているが、猛暑の影響は避けられず、通年で前年比104.8%となった。
省エネルギー・省資源の推進	「建物エネルギー管理システム (BEMS)」において電力デマンドを自動制御し、建物全体のエネルギー消費をコントロールする。	エネルギー消費量の抑制	継続して実施している。
省エネルギー・省資源の推進	空調の稼働時間を機械的に集中制御するとともに、一定温度内でしかユーザーが調節できないよう集中管理する。	エネルギー消費量の抑制	継続して実施している。
省エネルギー・省資源の推進	換気装置 (ロスナイ) での熱交換、高遮熱複層ガラスとダブルスキン (二重サッシの内側にブラインド設置)、等により、空調負荷を軽減する。	エネルギー消費量の抑制	継続して実施している。
省エネルギー・省資源の推進	空調機の定期的なメンテナンス (フィルター清掃や交換等) を実施し、省電力で機器能力が最大限に発揮できるよう管理を徹底する。	エネルギー消費量の抑制	フィルター清掃を年2回実施した。
省エネルギー・省資源の推進	全館で長寿命のLED照明を設置するとともに、人感センサー・調光センサーも機能させている。また、お客様のご迷惑にならない範囲で照明を日中から消灯したり、夜間自動消灯による切り忘れ防止等により、電力負荷の軽減に繋げる。	エネルギー消費量の抑制	継続して実施している。
省エネルギー・省資源の推進	手洗用温水器や便座、ウォシュレット等の温度を季節によって調整することにより、電力負荷の軽減に繋げる。	エネルギー消費量の抑制	継続して実施している。
省エネルギー・省資源の推進	太陽光発電装置により、外構の電力の一部として利用している。また、電動ブラインドにおいては、太陽光センサーによるスラット制御により、空調負荷の軽減に繋げる。	エネルギー消費量の抑制	継続して実施している。
省エネルギー・省資源の推進	通勤は、公共交通機関の利用を原則とし、社有車を全て電気自動車またはハイブリッド車に変更することにより、ガソリンの消費量を大幅に削減し、排出ガスの抑制に貢献する。	エネルギー消費量の抑制と自動車からの排出ガスの削減	継続して実施している。

(2) 非化石エネルギーの利用の状況

ア 非化石電気の使用状況

指標	非化石電気の使用状況						目標 (2030年度)	
	令和 6年度		令和 7年度		令和 8年度			
使用電気全体に占める 非化石電気の比率	17.4	%		%		%		%

イ 計画期間 1 年度目（令和 6 年度）における非化石エネルギーの利用状況

非化石エネルギーの使用量	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
ki	t-CO ₂

(3) 未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 1 年度目（令和 6 年度）における未利用エネルギーの利用状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ アのうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	未利用エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(4) 環境価値（クレジット等）の活用状況

計画期間 1 年度目（令和 6 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(5) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

t-CO ₂

(6) 電気の需要の最適化に資する措置を実施した日数

日

(7) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

【再生可能エネルギーの利用】太陽光発電を利用した設備の導入
【水資源の有効利用】①擬音装置の設置②雨水貯留タンクや雨水利用施設の設置
【廃棄物の排出規制】①両面印刷による紙使用量の削減②社内イントラネット活用によるペーパーレス化の推進③分別BOXの設置
【自動車利用の抑制】公共交通機関による通勤

(8) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

環境保全の日に限定せず、年間を通じ以下の取組を実施
・毎月1回、完全定時退社Dayを設定し、定時退社に努める
・Go Go Challenge Day (週1回17:30終業)を実施する